

# 所信表明用紙

二〇二一年度学園振興委員長選挙所信表明用紙

(六枚中の一)

学園振興委員長候補

情報理工学部 三回生

木村 悠生

この度2021年度学園振興委員長に立候補いたしました、情報理工学部新々回生の木村悠生と申します。本所信表明では、最初に私の目指す方向性、続いて私の経歴や経験、立候補の経緯について、今まで何を感じ、そしてそれをどう生かしていくのかについて、皆様が疑問に思っているであろうことを中心に述べていきます。

## 【方向性】

今年度学園振興委員長として、以下の3点を方向性として提示します。

- ・理解
- ・分解
- ・再構築

## 〔理解〕

学友会や学生自治、大学と学友会のあり方、その他学友会の長い歴史の中で生まれた慣例や問題点、また学生の要求や問題意識の理解を目指します。

そもそも、学友会の存在目的とは何なのでしょうか、「学生生活全般の発展向上」とは、「学問の自由と大学の自治」とは何なのでしょう。20年前は学生の声を集めてキャンパス内に建物を建てることすら出来たのに、なぜ今は、学生生活に不満を感じても、声を上げる学生が少なくなってしまったのでしょうか。学生に、大学に対する要求は無いのでしょうか。なぜ、2021年度においてはここまで常任委員長が空席で、学園振興委員長は数年間空席だったのでしょうか。空席になる前の学園振興委員会は、「学園振興」とは、そして学友会の形は、一体どのようなものだったのでしょうか。先達は、どのような気持ちで学友会を我々に残したのでしょうか。私は、気になるのです。我々は、任期が主に単年度であることも原因

# 所信表明用紙

二〇二一年度学園振興委員長選挙所信表明用紙

(六枚中の二)

の一端として、過去及び現在について起こっていた、または起こっている事象や問題の根底について、理解する時間的余裕を有していません。

多くのパートは活動の衰退について、様々な打開策を打ち出していますが、そもそもその衰退原因の分析・特定ができていなければ、その方策は全くの見当違いであることすらあります。ただでさえ衰退の一途をたどる中央パートが少ない人員で効率的な政策を打ち出すには、学生自治とはなんなのか、もしくはなんであったのか、そして現状の問題の原因はなんなのかの理解が必要となります。また、要求実現の観点では、学生の学友会離れが叫ばれる中で、学友会こそが学生に寄り添い、真の学生の需要・要求を知る必要があります。そのため委員会として網羅的に調査し、「理解」することを方向性の「点目」とします。

〔分解〕

理解に基づいて問題の分解、また見出された目的・思いへのアプローチの分解を目指します。

現在学友会では内外に多数の、あまりに大きな課題を抱えていることは明らかですが、大きな課題を一気に解決しようとするあまり、効率的でかつ革新的な解決方法、いわばヒーロー的アイデアを求めがちであると感じています。しかしながら物事の根本的な理解に基づく解決とは、小さな課題をコツコツと解決していく事により最終的に大きな成果を得るということだと、私は考えています。つまり大事を成し遂げるにあたっては、スモールステップ法による解決が、一見遠回りに見えて一番大切だということです。そしてそのスモールステップを構築するには、理解に基づく問題やアプローチの細分化が必要となり、これは要求実現でも学友会自体の再建でも共通することです。そのため、2点目の目標として理解によって得られたものの「分解」を提示します。

〔再構築〕

理解・分解の総括として、理解による認識・知識の再構築、分割による活動の再構築、そしてそれらの過程を通した学友会の学生自治の再構築を目指します。

理解・分解の過程で、自ずと必要なものが洗練されて見えてくるでしょう。その小さな問題や知識を学友会の復活へと昇華するためには、適切な好循環の構築が不可欠であることは最早言うまでもありません。既存の手法や組織体に捉

# 所信表明用紙

二〇二一年度学園振興委員長選挙所信表明用紙

(六枚中の三)

えられない学友会の再構築に、数年間過去のしがらみがない学園新興委員会は、まさに最適な部署であると思います。

一方で、再構築というの新しい手法や体制を作り出すということだけではなく、不要なもの切り捨てるということでもあります。つまり各種運動、学園振興委員会自体、または学友会そのものの存在価値についても検討し、場合によっては中央常任委員会や中央委員会に選択と集中による再構築を提示したいと思います。以上を以て方向性の〇点目、「再構築」とします。

ここまで〇点を方向性として提示しました。非常に基本的なことではあります。基本的なこと積み重ねが学園振興委員会を成立させ、ひいては学友会活動全般に良い影響を与えていくものであると、私は認識しています。

実務ベースでは、示した方向性を、要求実現を中心とする政策活動と、学友会の再興への活動にそれぞれ当てはめて推進していきます。

本年度学園振興委員会は、中央委員会のご指導の下、私、学園振興委員長の下で以上の方向性をもって、要求実現運動をはじめとした政策活動や学友会全般に関わる活動に取り組んでいきます。

## 【これまでの活動について】

本段では、以下の〇つに分けてこれまでの活動について、経歴や感じたこと、方向性に生かせることについて記させていただきます。

- ・ 学部自治会
- ・ 中央事務局
- ・ 特別支援事業実行委員会

## 〔学部自治会〕

私は1回生時に自治委員として学生自治の主体者として自治会活動に参加し、2回生時より2年間、情報理工学部自治会の委員長として中央パートで活動しました。パート内では五者懇談会に累計で4回参加し、クリエイションコアの環境改善やシラバスの掲載内容の改善要求を通して、要求実現運動の実務につ

# 所信表明用紙

二〇二一年度学園振興委員長選挙所信表明用紙

(六枚中の四)

いて経験を積みました。この経験は、学園振興委員会の任務である政策活動に生かせるものだと思います。また委員長として活動する中で、自分が常に主役となり物事を推進するのではなく、仲間を信頼し適材を適所に配置し、活動の高度化を図るということを学びました。この経験は、私が方向性として「分解」を掲げようと思うきっかけとなったものです。ともすれば孤独に活動を抱え込んでしまいがちな中央パートにおいて、仲間を有しリーダーとして、上意下達だけではなく各個人々の長所を知り、それを生かした組織作りをしたという経験、得た能力は必ずや学園振興委員会でも発揮できると確信しています。

〔中央事務局〕

中央事務局では、2回生春 semester より調査企画部に所属し、3回生時にはBKC次長を務めました。調査企画部では課外自主活動団体対応やセントラルアクトオフィスの管理を通じて中央パート内外の学生と直接触れ合い、団体の直面している現状について、多くの場面を通じて見てきました。その中で、学生生活に軸足を置かない学生の多くは課外自主活動に軸足を置いており、多くのニーズがあるのにもかかわらず、学友会はそれに十分に対応しきれていないという場面も多々ありました。これらの視点を常任委員会に持ち込むことで、より要求実現運動のアプローチ方向が増加し、今よりさらに学生実態に沿った政策活動が展開できるものと考えています。また調査企画部の活動の中で、学友会の過去資料について研究し、団体の歴史に理解を深める一場面もありました。この経験より私はまずどんな組織でも過去を学び、知ることが必要であるとの認識に立ち、方向性として「理解」を掲げています。

一方部内に目を向けると、調査企画部には様々な学部・パートから集まった、かけがえのない仲間が集結しています。多種多様な価値観の中で次長として1年間を乗り切った経験は、周りの経験に耳を傾ける能力を身につけさせました。この経験を活かし、常任役員として、中央パートの皆様をはじめとする学友会全体と信頼関係を構築していきます。

〔特別支援事業実行委員会〕

上2つの組織に加え、2020年度に組織された特別支援事業実行委員会に推進委員として在籍した私は、委員として、プロフェッショナルが集まっている委員

# 所信表明用紙

二〇二一年度学園振興委員長選挙所信表明用紙

(六枚中の五)

会内で、学友会で新しいものを作ることの困難さ、そして複数のパートの担当領域にまたがる活動を一つの委員会として「再構築」することの難しさを痛感しました。理想だけでは前進しない現実に向直し、学生のニーズを把握しきれず、議論を重ね計画した企画が評価されない経験もしました。これらの失敗の最大の原因を、新型コロナウイルス感染症という大きな問題を、問題の根底を理解せず、大きな問題に大きな解決方法で対応しようとしたことにあるのではないかと考えた私は、理解と分解に基づく「再構築」の必要性を認識しました。ここまで成功経験を還元することばかりを列挙して参りましたが、この失敗すら糧として中央常任委員会役員として皆様に還元していきます。

## 【立候補の経緯】

2021年1月、先述の通り3年間様々な部署で学友会を見つめ、また経験を積んだ私の興味関心は、「学友会の歴史」にありました。つまり、自分は様々な部署で精力的に活動し、また局所的な課題を多く解決したのにもかかわらず、学生自治を取り巻く現状は改善しなかったため、先達はどのようにして学生自治という偉業を成し遂げ多のか、ということに興味を湧いたのです。純粹な知的好奇心です。この知的好奇心に駆られて、私は自分の所属パートが所有している過去の資料を、1990年代まで遡って研究していました。そんな中、学友会情勢は常任委員長空席という最悪の局面を迎え、その原因を過去から学ぼうとしていた私は、自分の知的好奇心を自分のためだけに使うのではなく、経験を添えて広く還元していくことで、学友会を復活に導く力になるのではないかと考えているに至りました。幸いなことに、私には様々な経験がありました。経験が不足している分野には、それを補ってくれる素晴らしい仲間がいました。何より、学友会に関する知識と、問題解決に対する純粹な好奇心がありました。そしてこれらの要素を無駄なく発揮するために、学園振興委員長へ立候補しました。常任委員長では、大きすぎる知的好奇心が日常の業務を阻害してしまうかもしれません。常任副委員長も同様です。中央事務局ではあくまで常任委員会の下事務を担当する部署なので、理解した事象を、広く実践に昇華することができないと考えました。だからこそ、学園振興委員長への立候補を決めました。

# 所信表明用紙

二〇二一年度学園振興委員長選挙所信表明用紙

(六枚中の六)

以上が私の目指す方向性、経歴や経験及び立候補の経緯です。

私は学園振興委員会の方向性について提示しましたが、この方向性を生かすも殺すも中央パートの皆様次第です。これまで私は、学友会再興の夢ならたくさん見ました。きっと中央パートの皆様も少なからず同じ想いがあるものと思います。しかし残念なことに、夢を見ていただけでは現実は動きません。そして何より、私は夢を追わなかったことに後悔したくはありません。皆様の力をもって、学友会をより良い方向へ新しく一歩、踏み出せるよう誠意取り組んでまいります。どうぞよろしく願います。

投票日 二〇二一年三月二十六日

立命館大学学友会中央常任委員会

同選挙管理委員会